



図『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.22

働の記録画も提示すれば、工業開発物語が人の苦勞を語り出す。

地図帳にのっている工業製品や交通の記号、環境の記号を単にバラバラにとらえるのではなく、それらを生産・販売に向けて関連づければ、資源を加工し製品をつくり、送り出す工業生産の原理がいきいきと想像できるだろう。

③ 「工業のさかんな地域」と高速道路の建設を関連づける
地図帳p.67～68の「日本の産業のようす」の「④

工業の分布」という資料図を用いたい。そこには、有名な工業地帯や工業地域の名前が日本列島の中に印字されている。工業は港湾の位置への気づきが指導の要点になる。太平洋側に主要な港が並び、太平洋をはさんでアメリカ合衆国との貿易に有利にはたらいた事実気づかせたい。近代工業の黎明期をひもといてみても、長崎や神戸、四日市、横須賀、横浜、函館の各港がすぐに思いつく。地形を生かした港づくりが読み取れる。

日本の工業生産は、大工場を多くの中小工場が支える協力関係が特色である。それらの関係を強化する高速道路も重要だ。1969（昭和44）年に全線開通した東名高速道路も工業製品の輸送や在庫をもたずに工場に部品を運ぶジャストイン・タイムの製造過程に不可欠なインフラである。港湾や高速道路は、私たちが観光で利用する結節点や動線でもある。旅行の際の移動に使うという見方から、「工業開発を支える」という見方へ変えれば、港や高速道路がまた違った姿に見える。

◆観光授業の玉手箱



- ①地域開発のルーツにつながる物（建物や機械）プラス 語り（人や立地が示す意味）に着目できれば、感動はひとしおになる。
- ②工業製品や交通の記号、環境の記号をバラバラにとらえるのではなく、それらを関連づければ、工業生産の原理がいきいきと想像できる。
- ③観光で使う港湾や高速道路を地図上で確かめつつ、工業開発を支える交通インフラであることに気づかせる。

Let's try!

別冊資料 都道府県をおぼえよう！日本縦断！名物すごろく

本号の別冊資料は、北は北海道から南は沖縄まで、47都道府県を観光しながら遊ぶ「すごろく」です。さいころをふって出た目の数だけ進み、ゴールの沖縄までだれが早く着くかを競います。

児童がすごろくで遊びながら、各地方にはどのような都道府県があるか、だいたいの都道府県の位置などをつかむとともに、楽しいイラストを見ることで、各都道府県にはどんな有名なものがあるか、知るきっかけになればと思い制作しました。

自分の住んでいる都道府県を中心に、旅行や食べ物にまつわる自分の経験、テレビなどのメディアで知っていることなどに関連づけながら、自然と47都道府県のイメージをつかんでもらえれば幸いです。弊社、指導者専用サイトには、印刷しやすい、このすごろくのB4版PDF、すごろくで使えるかわいいコマのPDFも掲載しております。ぜひグループに分かれて、このすごろくをご活用いただければと思います。（編集部）